

ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学
名前 長谷川順一郎
作成日 2026年3月12日

【責任】

観光マネジメント学科に所属し、専門である観光・ホスピタリティ分野を中心とした教育・研究活動を行っている。専門分野の講義科目に加え、初年次必修科目（「商学基礎」）、専門ゼミナールも担当する。専門ゼミナールの履修者に対しては、卒業研究作成の指導、就職活動の支援を含めた学生生活全般の指導・支援を行う。

【理念】

大学生は知的好奇心を持つことが求められる。卒業研究だけでなく、日頃から自ら問いを立て、その答えも自分で見つけるべく努力を重ねてほしい。それらの活動を通して、学生時代に人としての器量を大きくし成長してほしい。それに向けた支援を行う。そして、大学で学修したことを活かして、志望する企業・団体に就職できるよう支援する。さらに、その企業・団体にて周囲から信頼を得て活躍し、広く社会に貢献できる人材の育成を心がける。また、学修・就職の面に留まらず、常に感謝や他者への思いやりを忘れない、ホスピタリティ精神溢れる人材の育成に努める。

【方針・方法】

社会に出たらノートをとることは必須である。今からしっかりと身につけておく必要がある。そのなかで、自分なりの「発見」（気づき）、疑問も記すべきである。授業中いかに多くのことに気づけ、疑問を見つけられるかが問われる。その前提として、講義は一言一句聞き逃すまいという姿勢でノートテイキングすべきである。

また、一方通行の講義にならないためにも、授業中に教員からも頻繁に問いかける。そして、授業後はノートを中心にしっかりと復習してほしい。それらが実践できるよう、以下のことに留意する。

① 「自己評価書」の作成

学生には自らの受講姿勢を律するためにも、中間、期末と2回、「自己評価書」を作成させる。項目ごとに評価させ、それぞれ理由も記させる。そのなかに「ノートテイキング」の項目も設けさせる。教員も学生への評価を行うが、高いレベルで一致すれば、素点にプラス評価を付与する。

② わかりやすい授業内容、パワーポイントの展開の配慮

大学生でも理解しやすいような内容とする。理論だけでなく、実務家教員として現場での応用についても説明する。ノートテイキングさせるため、パワーポイント自体はあえて配布しないが、ページをめくるスピードには十分配慮する。

③ フィードバック

授業の始めに前回の振り返りをする。学生がノートに記した気づき、疑問、さらに、復習としてそれをもとに調べて理解したことなどを説明させる。

④ 受講ルールの徹底

講義時間厳守（課題の締め切り厳守）、挨拶の徹底など、基本ルールを順守させる。これらは他者への配慮、思いやり、自律性の確立などにも深く関連する。

【成果・評価】

- ・高い授業評価を得られている。
- ・ゼミ生は高い就職率（ほぼ 100%）であるだけでなく、入社式において全新入社員の代表者に選出されることも多い。
- ・ゼミ修了者が大学に頻繁に訪ねてくれる。また、現役生のフィールドワークにゼミ修了生が積極的に協力してくれる。
- ・名門ホテルの代表取締役社長、総支配人などがそれを高く評価し、人事担当者とともに大学・研究室を表敬訪問していただくこともある。またある有名企業は本ゼミ修了者の活躍から「本社は長谷川ゼミ生を最優先して採用したい」と面接時に公言している。

【目標】

- ・観光・ホスピタリティを学修できる大学は多くあるが、以前のように本学を第一志望として入学してくる学生が再び現れるよう、観光マネジメント学科の魅力度を高める。

(2031 年度まで)

- ・名門国際級ホテルにゼミ生を輩出する。教え子がそこで活躍し、その教え子を送り出したことに対し当該企業から感謝され、また次年度も採用されるという好循環を作る。

(2031 年度まで)

(以下余白)